



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
39

発行日
2018年3月12日

in 大阪

第18回日本クリニカルパス学会 学術集会開催報告

2017.12.1～2

第18回学術集会 会長、若草第一病院
山中英治

第18回日本クリニカルパス学会学術集会を2017年12月1日（金）、2日（土）に大阪国際会議場で開催いたしました。幸い天候にも恵まれて2,800名という多数のご参加をいただき厚く御礼申し上げます。

大阪開催は2回目ですが、前回の第2回学術集会も山中が事務局を担当しました。16年の歳月で私は老化、パスは進化しました。初代理事長の須古先生から「当時の山中先生は、旧弊を改めようとしない先輩医師たちの石頭をパスで標準化しますなんて言っていて、随分威勢の良い若者だなあと思いましたが、学術集会の会長を担当する歳になったとは、時の流れを感じます」というお言葉を頂戴しました。

理事長の副島先生は「第2回と今年の抄録集を読み比べましたが、第2回はパスの作成や導入などの演題がほとんどでしたが、今回は電子パス、BOM、記録、教育、地域連携、業務軽減、データ分析、病院経営、EBM、回復促進など多岐にわたり、領域の広がりが著しく隔世の感があります」と仰っていました。

病院にパスがあって当たり前の時代に入職した職員がほとんどになって、パスを作成した経験のない医師や看護師に



山中英治 先生

としては、パス学会はパスについて話し合う狭い分野の学会との誤解もあるようです。初めて参加された医学部教授から「こんなに多くの参加者で、職種も様々、発表や議論の分野も広く、内容も深いことに驚きました」という感想もいただきました。

ただ旧知の医師からは「先生が会長なのに、えらい真面目な学術集会やね」「意外に堅い内容やね」とも言われましたが、私は実は真面目で堅いのです。

今回取り上げましたシンポジウムやパネルディスカッションは、参加者の方々に興味深いテーマを選びました。学術集会は、知恵と工夫と経験を持ち寄って、披露し、共有することで切磋琢磨して、知見と課題を現場に持ち帰る場であります。どの会場も多くの方が参加されて、熱心な議論が行われていたことに感動しました。テーマを練って

▶ 第18回日本クリニカルパス学会学術集会開催報告
第18回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して
クリニカルパス教育セミナー指導者養成コースに参加して

いただいたプログラム委員の方々に感謝です。

自分自身、若い頃は目立ちたがりでしたので、シンポジストになりたくて応募して採用されるととても嬉しかったので、すべて公募にしました。指定にした方が主催者は楽ですが、良く知った顔ぶれのベテランの演者ばかりで新鮮味がありません。応募があるか心配しましたが、各セッションに多くの応募があり、採択に悩むという嬉しい結果で、目論見通り人材発掘にもなりました。

教育講演は参加者に看護師が多いことも考慮しまして、学問的、科学的かつ臨床経験豊富な看護師のリーダーである東京大学の真田弘美教授に、臨床に役立つ科学的根拠のある研究の実践について講演していただきました。特別講演はパスで知り合って長い付き合いになる友人で、臨床医としても人間としても優秀で魅力的な岡田晋吾先生と今田光一先生に、パスと医療と、そして人生についてまで、楽しい講演をしてもらえました。

参加者の皆さんとスタッフのおかげで、有意義な学術集会を開催させていただけました。この場を借りまして感謝申し上げます。



in 大阪

第18回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2017.12.1～2

社会福祉法人三井記念病院 診療情報管理部
丸本結実

「あなたは何者ですか」「ただの事務です」

表彰式での山中先生とのやり取りが印象深く残っています。このたび、「ラジオ波焼灼術パスの適応基準の適正化」で第18回日本クリニカルパス学会学術集会賞の最優秀賞を受賞しました。ノミネートされたと連絡をいただいた時から、多くの医療職のなかに「ただの事務」がいていいのだろうかと思心地の悪さを感じていました。

今回の演題は、「ガイドラインに基づくパス設定」という委員会の活動方針と「ガイドライン適応外の患者も含めて1つのパスで診療を行っていく」という診療科の方針が食い違ったことをきっかけに分析を始め、結果をまとめたものになります。医療職ではないので、カルテを何百回と読み、疾患像や患者属性をつかみ、分析対象の全24項目のデータを揃えていきました。分析の過程で何度も行き詰まりましたが、パス委員会委員長の助言のもと、最終的には在院日数延長の要因を多変量解析から明らかにすることができました。そして、「ガイドラインに基づく標準治療としてパスは設定されるべき」という考え方の正当性を改めて認識することで、パスの適応基準の見直しを行いました。

私が感じていた居心地の悪さは、この賞は、「ただの事務」である私個人ではなく、病院として受賞できたという思い



がとても強かったことにあると思います。なぜならこのパスは、医療者とともに作成し、パスを使い医師が治療・看護師がケアを行い、薬剤師や栄養士等のメディカルスタッフが様々な局面で関わり、その一人ひとりの症例の積み重ねを事務が客観的に分析を行い、分析結果をもとに全職種でさらなる検討を行い、改善し、新しい形で運用を始めた、まさに病院全体の取り組みそのものだったからです。「そんな取り組みは当たり前じゃないか」と思われるかもしれませんが、言うは易く行うは難しで、3年前にパス委員会の事務局担当となった当時には、想像すらできなかったことです。

パス委員長をはじめ現場の医療職と事務局である診療情報管理部の部員一人ひとりのパス活動の積み重ねが結実したように感じています。当院のパス活動は、まだまだスタートラインに立ったばかりですので、この勢いを継続していくように、また明日から新しい気持ちでパスに向き合い、携わっていただければと思っています。日本クリニカルパス学会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



【日本クリニカルパス学会 第18回学術集会賞 受賞者】

最優秀賞：

1-A-06 「ラジオ波焼灼術パスの適応基準の適正化」

三井記念病院 丸本 結実

優秀賞：

1-A-05 「地域連携パスデータの後利用による一次骨折予防への取り組み」

青森県立中央病院 伊藤 淳二

1-A-07 「内科系パス増加への新たな取り組み

～心不全治療パスを用いて」

中電病院 石橋 克彦

ノミネート賞：

1-A-01 「人工股関節全置換術のクリニカルパスによる経営改善効果の検証」

さいたま赤十字病院 石井 研史

1-A-02 「電子カルテの必要時指示機能をパス除外患者に使用した業務改善」

前橋赤十字病院 丸岡 博信

1-A-03 「小児細菌性肺炎クリニカルパス作成

～バリエーション分析と課題～」

福岡市立こども病院 名本 直史

1-A-04 「TUR-BT パス分析から適応日数短縮につなげる

取り組み」

大阪府済生会千里病院 増田 裕香

1-A-08 「秋田県厚生連における多施設共同研究班の

活動報告」

能代厚生医療センター 伊藤 博紀

【平成29年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

原著：第18巻第3号掲載

「人工膝関節全置換術

術後5日退院クリニカルパス達成の阻害因子」

船橋整形外科病院 町田理恵子

研究報告：第19巻第1号掲載

「JCS1桁の脳梗塞パスにおける自宅退院判定日と

その要因の検討」

岩手県立磐井病院 小野寺真理

※ご所属は論文掲載時のものです。

in 千葉

クリニカルパス教育セミナー 指導者養成コースに参加して

2018.2.24 ~ 25

千葉県循環器病センター クリニカルパス委員会・外科
岡本佳昭

「地域におけるパス指導者の育成」を目的として今年開講されたクリニカルパス教育セミナー指導者養成コースに受講者30名の1人として参加させていただきました。

当日は福井総合病院の勝尾信一先生の司会で幕を開け、トヨタ記念病院の岡本泰岳先生の基調講演では「パス活動は人を育て、人がパスを進化させる」と題して、セミナー開催のねらいを解説いただき、日常業務改善のSDCAサイクルとその先のPDCAサイクルとの関係性や「人」が要であること、challengeの中にchangeがあることなどを伺い、広い視野でパスに取り組む意義を強く感じました。

研修は2日間構成で2日目の模擬研修（研修in研修）に向けた研修プログラムの企画・準備・実施・振り返りの一連を6名ずつ5グループで行うグループワーク主体でした。私は第5グループでしたが、各施設でのTQM・パス・電子カルテなどのいわば顔役的なメンバーが揃い、想定対象者を職場の中核だけけれどパスには距離を置いている「隠れ初心者」とされるなど、ユニークで日常現場での悩みも踏まえた現実味溢れる構成となり、メンバー各人が自然と役割分担していく姿に感銘を受けました。

実際の模擬研修では、研修者役の方8名に2班に分かれていただき、①日常の困りごとを付箋で提示、②事例からの急性虫垂炎パス作成・発表、③パス作成を通してパスの利点に気付いていただく発表・討論という流れを、各メンバーがファシリテータ役として行いましたが、模擬研修後の参加者アンケートやアドバイスからの振り返りでは今後に生かすべき気づきが多くありました。また、最後の全体報告では、他グループの内容も非常に興味深く、お互いに模擬研修を体験できればとも感じました。

懇親会では、自分と同じような院内事情でご苦労されている先生にもお会いでき、自分自身の励みともなり、このような実務的な研修会ならではのと思いました。

当初は2日間もの研修に少々尻込み感もありましたが、勝尾先生・岡本先生・村木先生・学会事務局のご指導や、模擬研修に研修者役でご参加いただいたパス関東友の会の皆様のお陰で、無事に日程を修了し、大変充実した2日間を過ごせたことに、深く感謝申し上げます。昨年の学術集会総会でパス認定士認定証を副島理事長からいただいたこととも併せ、思い出深い1年となり、これからもパスで取り組む質改善を目指し、院内の仲間を増やしていきたいと思えます。





リレーエッセイ 第33回

～パスも煮えたら喰わあ～
まんが王国鳥取の方言と標準語

鳥取県立中央病院 前田啓之

かつて「うる星やつら」というまんがで、宇宙人ラムちゃんは「ダーリン、好きだっちゃ!」と言っていました。多くの方はこの語尾を「変な宇宙語」とか、「変わった言い方だけどこわいい」などと思われたようですが、普段から語尾に「だっちゃ」をつけている鳥取の人はまったく違和感ありませんでした(笑)。また鳥取の子供たちは「鳥取弁は大阪京都に近いが関西弁っぽくない、東京弁に近い」と親から教えられて育つため、大学生になって自分の言葉がなかなかの方言であることを知りショックを受けます(私もその一人)。そしてこの業界で働き始めてからは、パス活動を通じて施設ごとに様々な医療用語方言があることも知ります。

2014年に体制を刷新した当院パス委員会のスタートは、電カルベンダーが同じで病床規模の近い四国がんセンター様の視察からでした。そこでBOMやMEDISなど標準用語についての議論があることを知り、方言の使用をやめ標準語での意志疎通や比較をしようという趣旨に当院も賛同し、標準用語を理解しその意義を啓発する院内活動を行ってきました。しかしながらそれを理解し広めるのはハードルが高すぎたようで、パスに関わると負担が増える印象をあたえ、パスを敬遠させることになってしまったかもと反省するに至り、現在はパスの良さを知ってもらい裾野を広げる活動を進めています。写真は昨年開催した「パスを知

ろう」というパス初心者向け院内研修会です。

鳥取で新しいことにチャレンジするのはなかなか大変です。鳥取東部の人の気質を表す「煮えたら喰わあ」という言葉がそれを語っています。引っ込み思案な性格なので鍋が煮えてできあがるまでは怖がって手を出さない、しかし人がおいしそうに食べるのをみたら人一倍食べる、良く言えば「慎重」・「控えめ」、悪く言えば「消極的」・「他力本願」という性格の人が多いのです。

そんな鳥取を当院のトップでもある平井伸治鳥取県知事は「まんが王国」と名付け宣伝しています。水木しげる(ゲゲゲの鬼太郎)、青山剛昌(名探偵コナン)、谷口ジロー(孤独のグルメ)各先生の出身地でまんがとゆかりが深い県なのです。「スタバはないけどスナバ(砂丘)はある」、「金はないけどカニはいる」など、知事が連発するダジャレから「すなば珈琲」ができたり「蟹取県」を名乗ったり、控えめに見えて実はまんが王国らしく何事も楽しみながら頑張れるポテンシャルを持つ地域性だといえます。

当院のパス委員会も楽しく活動を続けています。患者用パス作成の雛形とマニュアルを整え、入院治療計画書を兼ねた形で作成・印刷できるようにし、次期診療報酬改訂にも備えています。標準用語を取り入れたパスの見直し作業は、モニター画面でなく模造紙サイズに印刷し、多職種が気軽に活発な意見交換ができるよう車座形式で意見交換をするスタイルにし活性化しました。ようやく「パス鍋が煮え始めたのでつについてみようかな」と職員が思える環境が整ってきたかなと思っています。パス学会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

次のバトンは、パス学会で知り合い、鳥取にお越しただいて当院のこういった機運を作ってくださったお一人である、長野中央病院外科 成田 淳先生にお渡します。



前田啓之 先生



第19回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2018年10月12日(金)・13日(土)

会 場：函館国際ホテル(北海道函館市大手町5-10)
フォーポイントバイシェラトン函館
(北海道函館市若松町14-10)

会 長：高金 明典
(社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院 副院長)

メインテーマ：『進化するクリニカルパス～未来への架け橋～』

プログラム：

理事長講演、会長講演、招待講演、特別講演、シンポジウム、
パネルディスカッション、ワークショップ、教育セミナー、
論文の書き方セミナー、一般演題 など

参加登録募集期間：

2018年5月21日(月)～9月10日(水)

演題募集期間：

2018年4月20日(金)～6月19日(火)

第19回学術集会公式ホームページ：

<http://www2.convention.co.jp/jscp2018/>



平成30年度 学術研究助成

日本クリニカルパス学会では、研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【学術研究助成 応募期間】 平成30年4月2日(月)～5月31日(木)

平成30年度 優秀英語論文賞 (JSCP Best Paper Award)

【応募資格】 日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【学術研究助成 応募期間】 平成30年4月2日(月)～5月31日(木)

2018年度 クリニカルパス教育セミナー 基礎編

『楽しく学ぶクリニカルパスの基礎～知ろう！作ろう！使いこなそう！～』

2018年度教育セミナーは、基礎編、応用編の開催時期を逆転させ、夏期に基礎編を、秋の学術集会同会期中に応用編を開催することとなりました。パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあってご参加ください。

【東京会場】 2018年7月14日(土) 日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル)

【大阪会場】 2018年8月4日(土) 大阪国際交流センター(大阪府大阪市天王寺区上本町8-2-6)

※学術助成研究・優秀英語論文賞・教育セミナーの詳細は学会ホームページをご覧ください。